

6 区地域福祉計画の推進状況を踏まえて

平成 22 年 2 月 16 日 千葉市保健福祉総務課

1. ふれあいの機会・交流の場づくりの活動が多い

ふれあいの機会・交流の場づくりのような、人と人とのつながりを大切にする活動が多い。

| (例) | 実施主体 | 活動事例 |
|-----|--------------|------------------------------|
| | 社協地区部会 | ふれあい・いきいきサロン、ふれあい・子育てサロン |
| | 社協地区部会・町内自治会 | グラウンドゴルフ、お祭り |
| | 子ども会・老人クラブ | かるた大会、ハイキング、クリスマス会、料理教室、キャンプ |

○報告事例数の 4 割弱がふれあいの機会・交流の場づくりである。

○近隣住民同士のコミュニティづくりが促進される活動ではあるが、そこから心の通う関係づくりや助け合いの機運を高めることが必要。

2. 防災・防犯関係の活動が多い

自主防災組織による防災活動などが活発に行われている。

| (例) | 実施主体 | 活動事例 |
|-----|--------|---|
| | 社協地区部会 | 「災害時ひとりも見逃さない活動」「マップづくり」「あんしんカードづくり」「地域の防災力を高める研修会」など |
| | 自主防災組織 | 防災活動 |
| | 町内自治会 | 防犯パトロール |

○昨今の豪雨や地震災害により、災害時に支援を必要とする者への取り組みが改めて注目を浴び、住民の関心度が高くなっている。行政と地域住民の役割分担を明確にして、市・区計画に盛り込むことが必要（「千葉市災害時要援護者支援計画」との連携）。

○地域のコミュニティが希薄になる中、自主防災組織等の活動を通じて、住民同士の良好な関係を築くことも必要。

3. 日常生活課題を解決する活動が始まっている

身近な生活課題を解決するための組織づくりや活動が、地域に芽生え始めている。

| (例) | 実施主体 | 活動事例 |
|-----|--------|---|
| | 社協地区部会 | 「独居高齢者等に対する日常生活支援」 松ヶ丘地区部会（中央区）、花見川地区部会（花見川区） |
| | 町内自治会 | 「独居高齢者等に対する日常生活支援」 いずみ台ローズタウン自治会・大宮台自治会・貝塚北部自治会（若葉区）、大椎台「助け合いの会」（緑区） |
| | その他 | 「独居高齢者等の見守り・声掛け」 磯辺街づくり研究会（美浜区） |

○地域住民自ら生活課題を発見し、解決をする体制がつけられることから、地域福祉の基盤となる組織活動といえる。好事例を市全体に波及させることが必要。

4. 障害者（児）への取り組みが少ない

高齢者や子どもを対象とした活動が多く、障害者（児）を対象とした活動が少ない。

○障害者（児）への取り組みが少ない。一方では、中央区では障害者施設と社協地区部会が連携して活動を行ったり、緑区ではモデル事業（社協おゆみ野地区部会）を通じて、障害児やその親が地域住民に望んでいることを調べ、障害児を対象とした交流の機会づくりに励んでいる好事例も報告されている。

5. 担い手を育成・定着させる取り組みが少ない

担い手が慢性的に不足している現状がある一方で、担い手を確保するための活動が少ない。

○共助、公助のそれぞれで取り組めることについての検討が必要。

6. 情報発信が不足している

地域福祉活動に関心を持たせるような、地域住民への情報発信が不足している。

○区地域福祉計画には、地域福祉の情報発信に関わる項目が少ない。

○地域福祉への関心・認知度を高めるためにも、地域住民にどのように「地域福祉」の情報を伝え・啓発していくのか、具体的な方法も含めて改めて検討する必要がある。

7. 継続しない活動が多い

地域福祉活動を地域に根付いた活動にするために、一度限りで終わったり、短期間で終わってしまうことのない継続的な活動が必要である。

○平成 18・19 年度に実施した地域福祉のパイロット事業（48 地区部会、90 事業）では、数多くの報告事例があるが、現在継続中の事業は約半数である。

8. 公助が実践されていない

公助の取り組みや、公助と連携が必要な取り組みの実践事例が少ない。

○バリアフリーや交通対策等に関する実践事例が少ない。

○バリアフリー等のハード面整備は、ノーマライゼーションの理念を前提とした「千葉市バリアフリー基本構想」等の他計画で実践される。

○一方では、点字ブロック上の障害物調査など、住民主体で取り組める活動に着手している事例もある。